

KOKKAR'S

PLAN

FOR 2040

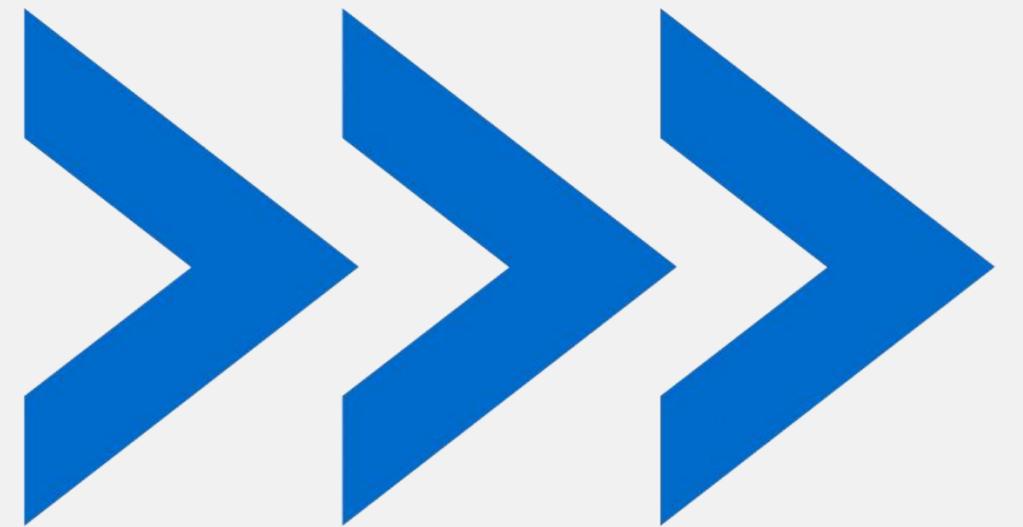
Imamura Sakurako

Shirasaka Sasara

Maeda Honoka

OUR

VISION



新しいアイデアとこれまでの経験が 夢をつなぐまち

新しいアイデア

積みかさねてきた経験

理想・期待
こんな甲賀市になってほしい

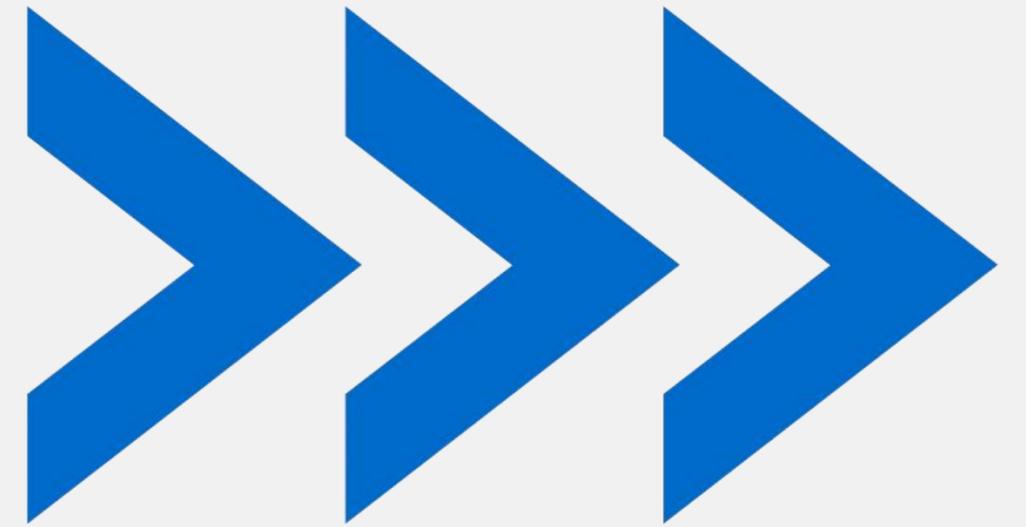
思い出・記憶
こんな甲賀市であってほしい

甲賀市



“ひろがる、つながる、シェアする甲賀市”

RESEAR



CH

調査（中間発表前）

フィールドワーク

車以外の交通の便が良くない
観光地の目的や場所がまとまっていない

市民の方へのアンケート

貴生川駅の使いづらさ
若い世代にとっての住みやすさ△



課題はたくさんある！
何から手を付けるべきか？

インタビュー：夢の学習の方々、移住者の方

高齢者同士のつながりはあるが、若い人たちと関わりが少ない
様々なコミュニティがある
地区によっては買い物や通院が不便、免許返納後は特に

1

大学との連携



2

働く場の拡大

3

公共施設の
再整備

調査（中間発表後）

インタビュー： 杣川夏まつり、甲賀流にんにん大花火、
矢川七夕まつり、油日まつりの実行委員会の方々

運営に携わる方々の年齢層の高さ

拠点となる事務局がない

甲賀市では1年を通して様々なイベントが開催されている

イベントによってボランティアなどの需要が異なる

労働力としてよりも、若者ならではの発想が求められている

新しいアイデアをどのように甲賀市に取り入れていくか

若者が甲賀市に関わっていく仕組みをどうつくるか

をまずは考えるべき！



甲賀市学生会
の設立

課題

甲賀市の魅力を発信できるシステムがない
若者が甲賀市のことを知り、向き合う機会がない



甲賀市の文化や伝統+学生の新しいアイデア
甲賀市の市政に学生が関わる=若い世代の住みやすさを実現
SNSでの情報発信=ターゲット層に効果的に届ける

どのくらいの大学生が政治に関心を持っている？

59.5%

明るい選挙推進協会(2016)より

想像している以上に
若者は政治に関心を持っている！

政策の内容

1 目的

甲賀市でのイベントの後継者不足の解決
継続的に新しいアイデアが取り入れられる仕組みを作ること

2 対象

市内の高校生・市内外の大学生/
自治振興会・観光協会などの各団体

3 内容

学生部会の設置

学生部会とは？

- ・所属：甲賀市役所 政策推進課

- ・構成：最大15人（うち部長1人、副部長1人）

高校生(市内):大学生(市外も可)= 2:1程度

- ・活動期間：1年、毎月1～2回のミーティング(ハイブリッド形式)

- ・活動内容：市内の各団体から寄せられた要望(課題)に対する解決策、

アイデアを練る

- 甲賀市内で実施する新規事業やイベントの立案、

既存イベントへの運営補助 SNS(Instagram、Twitter) の運営

参考にする事例

愛知県新城市「新城市若者議会」

- ・構成：若者議会委員(20名)+市外委員(5名)
市民、職員(メンター)+まちづくり推進課(事務局)
- ・期間：2015年から開始、7年継続
- ・経費：約2300万
- ・財源：地方創生推進交付金(約1100万)=国からの交付金
みんなのまちづくり基金(約550万)=新城市に設置されたもの
市税等負担額(約550万)=実質の負担額
- ・効果：シビックプライドの醸成(参加学生の市内での就職など)
ふるさと情報館リノベーション事業
→郷土資料室・多目的スペース利用者数：年間数十人 ⇒ 4,119人

参考にする事例

山形県飽海郡遊佐町「少年議会」

- 内容：遊佐町在住・在学の中高校生の中から
少年町長と少年議員を直接選挙で選び少年議会を開催
→自分達の決めた政策を実現
- 予算：45万円
- 目的：若者の力によるまちづくり
- 成果：スタディスペースの設置
遊佐町の飲食店をまとめた冊子作成→消費喚起

参考事例からの学び

共通する課題：人口減少（若年層の流出）

伝統的イベントの後継者不足・存続危機

- まちの新しい魅力づくり・発掘が急務
- 若者の声を聞き、実現する継続的な仕組みが必要
- 若者議会・少年議会として具現化

参考にできるポイント

- 若者が継続的に市政・市内のイベントに関われる制度設計
若者招集の仕方/市役所・地域との関わり方

計2030万円

予算

1 水口城南駅の 再開発費

土地代：約1500万円

改装費：約500万円

合計：約2000万円

2

学生会 運営費

光熱費：約10万円

消耗品費用：約10万円

合計：約20万円

政策実行費

4

1事業100万円
(年間3事業目標)

合計約300万円

広報活動費

3

印刷費：合計10
万円

支援金・補助金制度

1 地方創生 加速化交付金 (全額)

対象事業分野:

地方への人の流れ(生涯活躍の街、地方創生人材確保・育成)
まちづくり(小さな拠点)

対象事業決定の評価基準:

- ①自立性 ②官民連携 ③地域間連携 ④政策関連携
- ⑤事業促進主体の形成 ⑥地方創生人材の確保・育成
- ⑦国の総合戦略における5原則

2 地方創生 推進給付金 (半額)

交付事業分野:

地域社会を担う人材の育成及び確保に資する 観光の復興に資する
地域再生を図るために取り組むことが必要な政策課題の解決に資する

対象事業決定の評価基準:

- ①自立性 ②官民連携 ③地域間連携 ④政策関連携
- ⑤デジタル社会の形成への寄付⑥地方創生人材の確保・育成
- ⑦地域社会を担う人材の育成・確保

①水口城南駅再開発費

目的：学生部会の拠点地とする

財源：地方創生加速化交付金 近江鉄道会社との官民連携

選定理由：

- i) 多くの学生が利用する駅であり、
以前タクシー会社であった土地が空き地となっていたため
- ii) 近江鉄道会社の財政支援の一環として行うことができるため

官民連携とは

= 近江鉄道会社と協同で
水口城南駅の開発を進める

令和4～5年度：設備投資や修繕に対して財政支援
(運営改善期間)

令和6年度：公有民営方式

②学生部会運営費

財源：地方創生加速化交付金/地方創生推進給付金 +寄付金

寄付金：学生のアイデアを必要としている団体/企業から募る

→活動拠点地の維持・管理にあてる

③ 広報活動費

印刷費：市内高校生の数に応じる
(1枚8円 × 13000人 = 約10万円)

募集方法：高校には印刷したビラを配布
大学にはデータを配信

→ 大学との連携によるインターンシッププログラム化を検討

④政策実行費

内容：学生部会が立案した事業を
実行するための費用

システム：部会が答申し甲賀市議会へ提出する

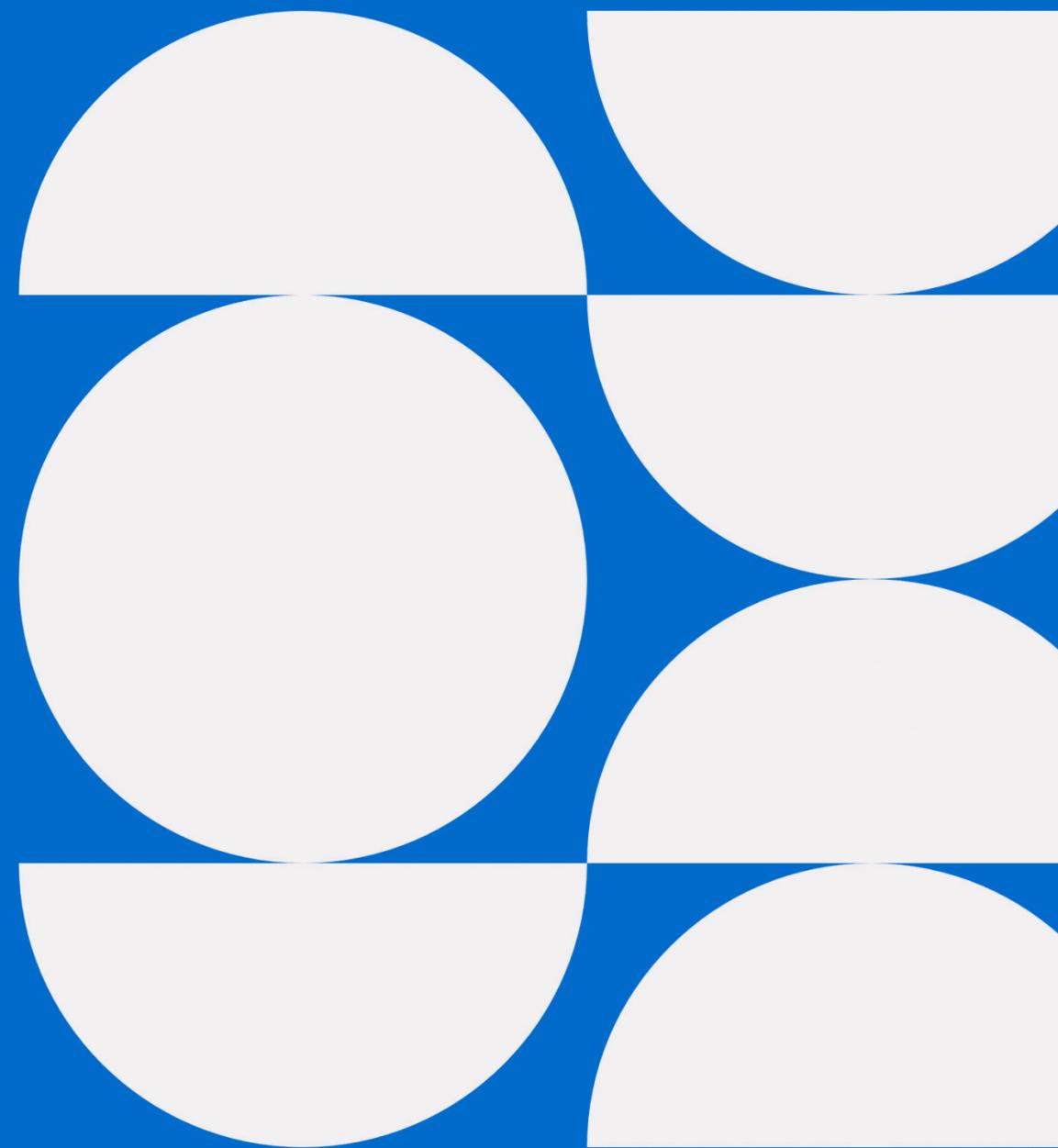
参考：愛知県新城市「新城市若者議会」

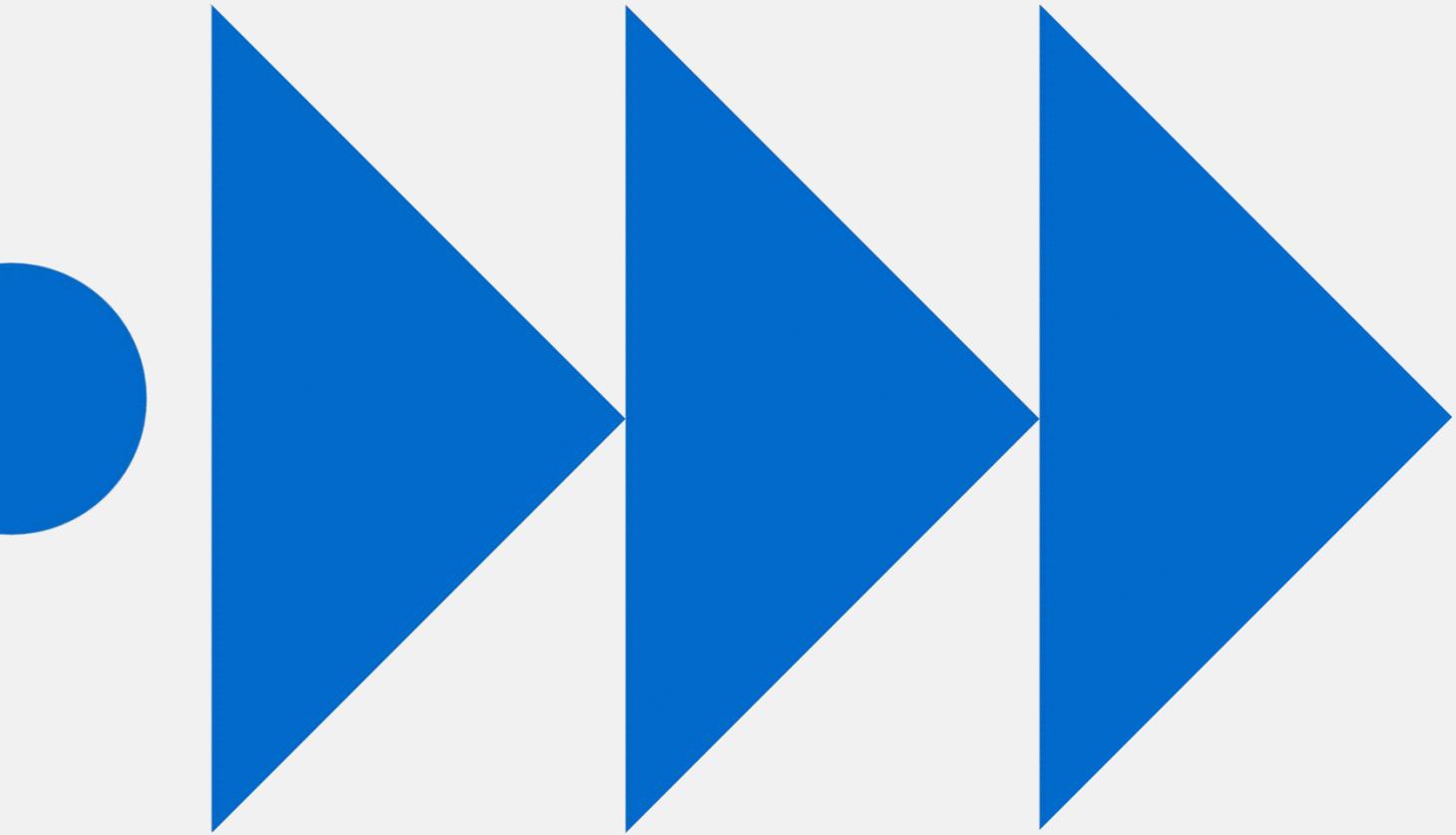
約1000万円(10事業×100万円)

↓規模を縮小する

約300万円(3事業)

学生部会設立により
実現される甲賀市の未来





学生部会設立による 甲賀市の活性化

- 01 学生部会が各団体に対して
アイデアを発案する
→甲賀市の文化や伝統の継承へ
- 02 学生部会は市政でも活躍
→若い世代のニーズに合ったまち
- 03 学生部会の発信力
→甲賀市の魅力・情報を
市内外の人々へ

実現例

インタビュー結果

: 自治振興会にイベント企画から長期的に学生が参加してほしい

1

1 杣川夏祭り実行委員会

- 📣 お祭りに学生を呼び込むアイデアが欲しい
- 💡 学生割引を適応する

2

2 貴生川駅自治振興会

- 📣 開催拠点地である貴生川駅周辺に飲食店が少ない
- 💡 キッチンカーをイベントに呼ぶ

学生部会が甲賀市の夢を繋ぐ

KOKARへの投票、よろしくお願ひします